

折に触れ 四字熟語

NO. 116 『安宅正路』 あんたく せいろ

< 意味 > 慈しみの徳の「仁」と、信頼の徳の「義」のたとえ。

「安宅」は住み心地のよい家。仁を安らかな身の置き所にたとえていう。「正路」は正しい道・人の踏み行ふべき正しい道という意から、義のたとえ。仁は優しさ・慈しみの、義は人間関係を保つための信義の徳をいう。

< 出典 > 「孟子」<離婁>上
「・・・」

孟子曰、自暴者不可与有言也。自棄者不可与有爲也。言非礼義、謂之自暴也。吾身不能居仁由義、謂之自棄也。仁人之安宅也。義人之正路也。曠安宅而弗居。舎正路而不由。哀哉。・・・」

読み下し： 孟子曰く、「自ら暴う者は、ともに言うあるべからざるなり。自ら棄つる者は、ともになすあるべからざるなり。言、礼儀を非るこれを自暴と謂う。わが身、仁に居り義によること能わざる、これを自棄と謂う。仁は人の安宅なり。義は人の正路なり。安宅を曠しゅうして居らず。正路を舎ててよらず。哀しいかな。」

通 釈：『自暴の輩とは、ともに語りあうことはできない。自棄の輩とは、ともに行動するわけにはいかない。口をひらけば礼と義を誹謗する、これを自暴という。何をするにも、仁を守らず義を貫こうとしない、これを自棄という。たとえていえば、仁とは人がくつろげる家であり、義とは人が迷うことのない本道である、自暴自棄なる者は、この家に居つこうとせず、この道を歩もうとしない。悲しいことだ。』

一 言： 孟子シリーズ その5

お気づきのとおり、「自暴自棄（じぼうじき）」の四字熟語もこの出典となっています。現代は、「仁」「義」の意味を正しく理解することも、ましてやそれを実践することも難しい時代ですね。

参考文献： 徳間書店・中国の思想「孟子」 岩波書店「四字熟語辞典」